

有効成分シンナムアルデヒドを含有する申請農薬の使用方法及び薬効・薬害試験結果概要

1. 置型しなもん（シンナムアルデヒド 97.0 %くん蒸剤）

(1) 使用方法

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シンナムアルデヒドを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	温室、ビニールハウス等密閉できる場所	灰色かび病 すすかび病	30 mL/10 a /日	発病前 ～ 発病初期	—	本剤を温風加温機の吹出口付近に設置して揮散させる	—
なす		すすかび病					
きゅうり		褐斑病					
花き類・観葉植物		灰色かび病					

(2) 薬効

① トマト、ミニトマト

薬効・薬害試験の結果、灰色かび病及びすすかび病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

ミニトマトの灰色かび病及びすすかび病に対する効果については、トマトの試験で評価した。

表 1-1 : 置型しなもんの薬効・薬害試験（トマト、灰色かび病、すすかび病）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害		試験条件			結果	
		病害名	発生量	使用量 (mL/10 a/日)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	宮崎 H23	灰色かび病	中 (接種)	30	生育期	加温機 温風で 揮散	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H25		少 (接種)				無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H26		少 (接種)				無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	和歌山 H26		多 (接種)				無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H27		少 (接種)				無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	和歌山 H28		中 (接種)		収穫 後期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H28		中 (接種)		果実 肥大期		無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害		試験条件			結果	
		病害名	発生量	使用量 (mL/10 a/日)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	高知 H25	すすかび 病	中 (接種)	30	生育期	加温機 温風で 揮散	無処理区と比較して効 果が認められたが、その 程度は低かった。	薬害は認めら れなかった。
	高知 H26		多		生育期		無処理区と比較して十 分な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
	和歌山 H26		多 (接種)		生育期		無処理区と比較して効 果が認められたが、その 程度は低かった。	薬害は認めら れなかった。
	高知 H27		少 (接種)		生育初期 ～収穫期		無処理区と比較して効 果が認められなかった。	薬害は認めら れなかった。
	和歌山 H28		多 (接種)		収穫後期		無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
	宮崎 H28		中		収穫期		無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

② なす

薬効・薬害試験の結果、すすかび病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-2 : 置型しなものの薬効・薬害試験（なす、すすかび病）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害		試験条件			結果	
		病害名	発生量	使用量 (mL/10 a/日)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なす	高知 H25	すすかび病	多 (接種)	30	生育期	加温機 温風で 揮散	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	高知 H26		少				無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
	和歌山 H26		多 (接種)				無処理区と比較して 効果が認められなか った。	薬害は認められ なかった。
	和歌山 H27		中 (接種)				無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
	高知 H27		中 (接種)				無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
	岡山 H27		多 (接種)				無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
	福岡 H28		多 (接種)				無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。

③ きゅうり

薬効・薬害試験の結果、褐斑病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-3 : 置型しなものの薬効・薬害試験（きゅうり、褐斑病）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害		試験条件			結果	
		病害名	発生量	使用量 (mL/10 a/日)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	高知 H25	褐斑病	中 (接種)	30	生育期	加温機 温風で 揮散	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H25		甚				無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	高知 H26		中 (接種)				無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H26		中				無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H27		中				無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	高知 H27		中 (接種)		果実 肥大期 ～収穫期		無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	温風吹出口に最も近い 50～70cm の距離にある葉に白化、縮葉する薬害が生じた。吹出口に極端に接近させなければ実用上の問題はない。

④ 花き類・観葉植物

薬効・薬害試験の結果、灰色かび病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

花き類・観葉植物の灰色かび病に対する効果については、パンジー、ペチュニア及びバーベナの試験で評価した。

表 1-4 : 置型しなもんの薬効・薬害試験（花き類・観葉植物、灰色かび病）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害	発生量	試験条件			結果	
		病害名		使用量 (mL/10 a/日)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
パンジー	静岡 H29	灰色かび病	少 (接種)	30	開花期	加温機 温風で 揮散	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
	和歌山 H28		少 (接種)				無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
ペチュニア	静岡 H29	灰色かび病	中 (接種)	30	開花期	加温機 温風で 揮散	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
	和歌山 H28		中 (接種)				無処理区と比較して 効果が認められたが、 その程度は低かった。	薬害は認められ なかった。
バーベナ	静岡 H29	灰色かび病	中 (接種)	30	開花期	加温機 温風で 揮散	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
	和歌山 H28		少 (接種)				無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。

(2) 薬害

① 対象作物

表 1-1 から表 1-4 に示した薬効・薬害試験において、きゅうりに葉の白化、縮葉が認められた。その他の作物について、薬害は認められなかった。

きゅうりの薬害については、作物体が加温機温風の吹出口に近接していたことが原因と考えられた。温風加温機の配置に関する注意事項が申請されていることから、問題ないと判断した。

これらの薬効・薬害試験とは別に、置型しなもんを用いて実施した限界薬量（倍量）薬害試験の結果概要を表 1-5 に示す。試験の結果、トマト、ミニトマト、なす、きゅうり、パンジー、ペチュニア及びバーベナに対して薬害は認められなかった。

表 1-5 : 置型しなもんを用いた薬害試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件			結果
		処理量 (mL/10 a/日)	処理時期	処理方法	
トマト	宮崎 H28	60	定植 116 日後～124 日後	加温機温風で揮散	薬害は認められなかった。
	福岡 H27		定植 72 日後～101 日後		薬害は認められなかった。
ミニトマト	和歌山 H29	60	生育期	加温機温風で揮散	薬害は認められなかった。
	福岡 H27		定植 72 日後～101 日後		薬害は認められなかった。
なす	岡山 H28	60	定植 83 日後～89 日後	加温機温風で揮散	薬害は認められなかった。
	福岡 H27		定植 9 日後～121 日後		薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 H28	60	定植 5 日後～11 日後	加温機温風で揮散	薬害は認められなかった。
	福岡 H27		定植 72 日後～101 日後		薬害は認められなかった。
パンジー	和歌山 H29	60	開花期	加温機温風で揮散	薬害は認められなかった。
	静岡 H29				薬害は認められなかった。
ペチュニア	和歌山 H29	60	開花期	加温機温風で揮散	薬害は認められなかった。
	静岡 H29				薬害は認められなかった。
バーベナ	和歌山 H29	60	開花期	加温機温風で揮散	薬害は認められなかった。
	静岡 H29				薬害は認められなかった。

② 対象作物以外の作物

本剤は密閉できるビニールハウス等で使用されるため、周辺作物に飛散する可能性は極めて低いと考えられること、本剤を使用したビニールハウスで野菜類や花き類を栽培しても薬害は認められなかったことから、試験実施は不要と判断した。